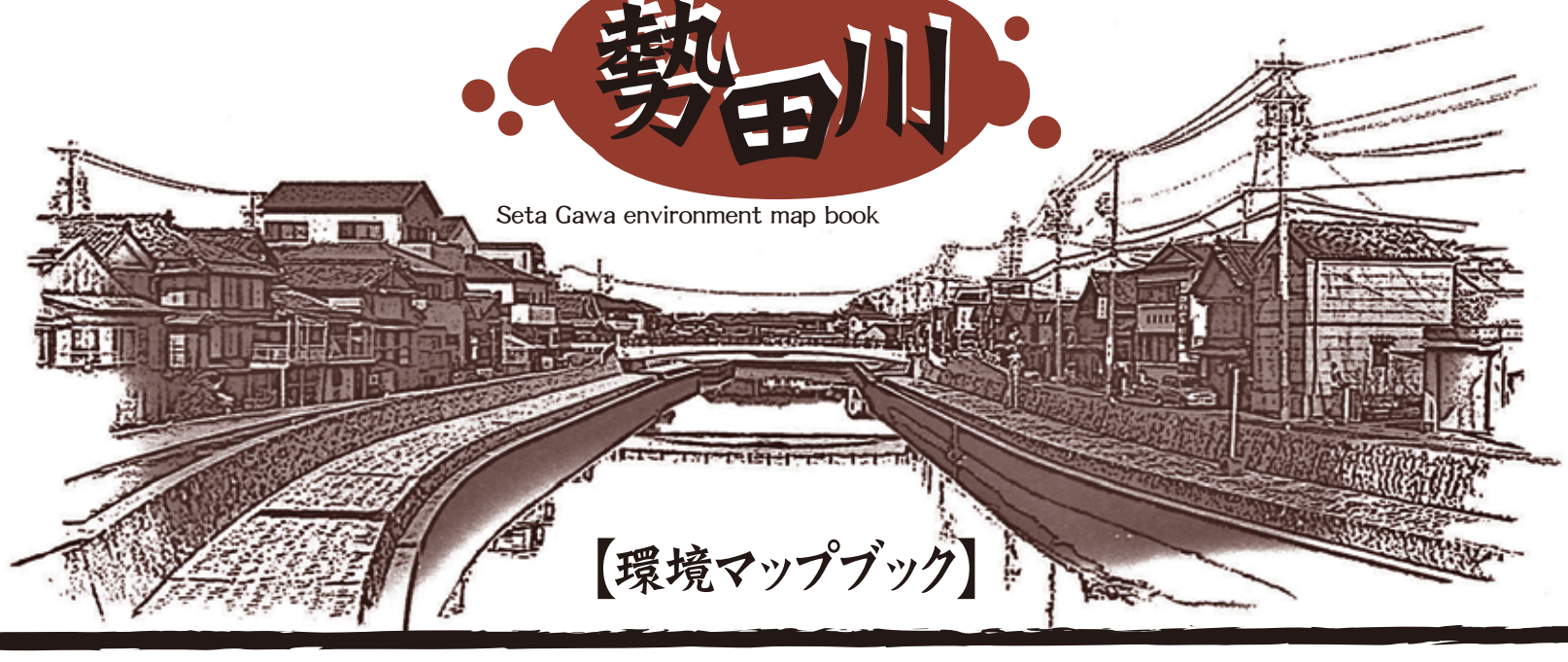
Seta Gawa 2016

# 勢田川

Seta Gawa environment map book



【環境マップブック】

Seta Gawa 2016

## ●勢田川のプロフィール

勢田川は、全長 6.9 キロの短い川です。もともとは宮川の分流だったようです。傾斜がなく、潮の干満があり、川には、伊勢市 13 万市民の約 25.8% もの生活排水が流れ込み、市街地の真ん中を流れています。かつては神宮の門前町の賑わいをささえる海運流通の玄関口でした。

現在の勢田川は、２０年に渡り「勢田川を天の川に」という願いを込めて取り組まれている七夕大そうじや、さまざまな水質浄化対策の効果もあって少しずつきれいな川になってきてはいますが、小田橋あたりから下流では、水が濁り干潮時には臭いもして、汚れた川というイメージがあります。でも、よくみると川にはいろんな生き物が棲息し、いろいろな表情をもつ、とても魅力的な川なんです。

## ●源流は鼓ヶ岳（つつみがだけ）

勢田川の源流は、伊勢西インター近くから南の山、鼓ヶ岳に。大きな住宅地の横をほんの少し山へ少し入れば、川はせせらぎになり、水が透き通ってきます。分け入るほどに、渓谷と呼ぶに相応しくなってきます。山の中をどんどん上がって川を辿っていくと、岩の間からポタポタと落ちるしずくが…源流です。もちろん、この水なら飲んでも大丈夫。しかし、山を出てわずか数十メートルで川は排水路となってしまうのです。勢田川の源流近くには、ひもろぎの里という野外活動施設もあります。

## ●蓮台寺柿（れんだいじがき）

勢田川沿いの特産品といえばコレ！勢田町辺りから上流部、勢田川沿線には蓮台寺柿の柿畑があります。伊勢市の天然記念物でもあるこの柿は美味しさにも定評があります。脱渋加工をしてから出荷する協同出荷場は、秋になると大忙し。その名の由来は、昔この辺りに蓮台寺というお寺があり、そこのお坊さんが柿をこの地に根付かせたのだとか。

## ●世義寺（せきでら）と護摩（ごま）さん

岡本町の世義寺橋右岸の山手に、世義寺があります。真言宗のお寺で、毎年７月７日には日本三大護摩のひとつといわれる「柴燈大護摩」が行われます。山伏の装束を着て火を渡り、豊作豊漁を祈願するのです。

地域の人たちには「ごまさん」という名前で親しまれている夏祭りです。

## ●勢田川七夕大そうじ

昔の勢田川は、夏になると水辺で子どもたちが泳ぎ、釣り人で賑わう親しみのある川でした。この勢田川の浄化に願いを込め、七夕に近い日曜日に約 2,500 人の市民が協力して毎年、勢田川沿岸の清掃を行います。

## ●小田橋（おだのはし）・簀子橋（すのこばし）

小田橋の左岸に三角のスペースがあり、柳の木と立派な瓦屋根のガイド板が建てられています。かつては参宮客で賑わった歴史のある小田の橋。この橋の擬宝珠（ぎぼし）を、かの徳川三代将軍家光の乳母であった春日局が寄進したという記録も残っているとか。

小田橋の下手が簀子橋。その名の由来は、昔、竹を編んだ簀子の上に土を置いた橋だったことからきているそうです。橋によって違った役割があったのでしょう。

## ●錦水橋（きんすいばし）

御幸道路が勢田川を渡る橋が錦水橋。12 基の擬宝珠が付いたこの橋は、明治 36 年、倉田山に徴古館が開館した時に出来たそうです。この橋のあたりから山の方を見ると、秋には紅葉が広がり、それが「錦」のようだったとか。

## ●清浄坊橋（しょうじょうぼうばし）

この橋は、二見の御塩田から外宮に御塩を運ぶ道だったので、神聖な清浄なる道ということからその名がついたそうです。そんないわれから、霊柩車はこの橋を通らなかったといいます。

## ●汐湯・おかげ風呂館　旭湯さん

清浄坊橋の右岸にある銭湯「旭湯」さんには、その塩の道沿いということにちなんで、二見の海水を汲み上げて運び、沸かしている「潮湯」があります。そのほかにも、旭湯さんはいろんなアイデアがいっぱい。勢田川沿いの注目スポットです。

伊勢出身の与一さんが江戸で銭湯をはじめたのが銭湯の元祖といわれています。

## ●川役人屋敷の跡

道や川に直接面した商家が多い中、立派な植木が目を引くお屋敷があります。昔、ここは税金を集める役割の川屋敷といわれたところの跡だそうです。今は民家になっていますが、川沿いから見える緑が由緒を感じさせます。

## ●二軒茶屋（にけんぢゃや）と どんどこさん

船で伊勢湾を渡り、伊勢参宮に来た人は、このあたりまで勢田川を上ってきたそうです。笛や太鼓を鳴らしながら賑やかにやってきたのをみて地元の人たちは「どんどこさん」と呼んでいたそうです。明治天皇も船でここから上陸された、ということで記念碑がたっています。
地ビールの工房と民具館もあります。

## ●イナ池排水路

堤防を真ん中に挟んで反対側に、もう一本川のような池のような流れがあります。これはイナ池が排水路になったもの。勢田川へ流れ込む量を調節するために川への出口にポンプがついています。

## ●勢田川排水機場

勢田川の河口には、防潮水門があります。潮が高くなった時に海の水が川に流れ込まないように水門が閉じられるようになっています。閉じられているところはめったに見られないようです。

今では少なくなりましたが春にはシラス漁が盛んでした。カモなどの渡り鳥群、カワウなど、季節ごとにたくさんの野鳥が 見られるところでもあります。

## ●水の循環

上流部から川の様子がどんどん変わっていきます。

きれいな山からの水に排水が入り込んで汚れていく…そしてそれが海に流れていく。たった 7 キロ足らずの距離で、山から海まで、そして人の生活と川の関連を見ることができる勢田川は、水の循環を実感するのにぴったりの「川のモデル」のようです。

## ●家庭排水、余分なものを流さない

本来川には水を浄化する力があるのですが、勢田川の場合、流れ込む家庭排水の量が多すぎて、浄化の許容範囲を超えてしまっているということです。特に合成洗剤は、水の中で分解しにくく、環境にダメージを与えます。

環境に負担にならないように、各家庭で毎日の生活の中で工夫できることもあると思います。たとえば、こまかな生ゴミを流さないようにしたり、合成洗剤をみなおして、自然の成分で作られている「石けん」などを使ってみてはどうでしょうか。

## ●岡本町水位観測所

姫之橋の右岸に、水位が出る電光掲示板があります。橋の下あたりにある計測器で自動計測しているようです。

## ●宮川からの導水

勢田川を浄化するために、宮川の水を南部幹線排水路などに通して、導水しています。南部幹線は、宮川から伊勢市図書館の周辺「百間堀」を通り、外宮の前から御幸道路に沿って流れていて、道路からその水の流れを見ることができる水路です。導水を始めてから水がきれいになりました。町にきれいな水の流れがあれば、豊かでいいと思いませんか。

## ●河崎の河川改修と池のこと

勢田川の護岸工事は、川沿いに道を作るのが基本で、護岸工事が進み、河崎の川辺の蔵の風情は消えてしまうことになりました。

しかし、その歴史ある町並みを少しだけでも保存しようということで、北新橋の側に池ができました。河崎商人館として改修された昔ながらの蔵の石組が池と調和して「古くて新しい」景色となりました。

河崎のまちなみ散策

## ●川辺の祭り・河崎天王（てんのう）さん

河崎の河辺七種（ななくさ）神社のお祭り、天王祭は 7 月 14 日。その日に近い日曜日が、地域の夏祭り「てんのうさん」です。夜店とイベントでにぎやかです。また、神輿が町内中を「そいやそいや」のかけ声で練り歩き、活気のあるお祭りに。また勢田川とともに暮らす河崎らしく、祭りの最後は、勢田川に浮かべた船から放つ打ち上げ花火と、川面を走る水中金魚花火が恒例で、なんとも風情があります。

## ●オブラートの会社があった

粉薬を包んで呑むオブラートは伊勢で誕生したんです。それも勢田川右岸、神久５丁目のあたりにその「キリンオブラートという社名の会社がありました。

## ●水道管橋

北新橋と勢田大橋の間には人が通る橋がありません。ちょっと不便です。船江と神久、黒瀬町と田尻町に水道管の橋が架かっています。人は通行できません。このあたりに餌を求めてやってきた鳥たちが休息するのに利用しています。

## ●田尻町の牟山中臣神社（むろやまなかおみじんじゃ）

川に向かって立つ神社。
地域のみなさんにきれいに手入れされています。

## ●別名＝おんべ川

勢田川は別名「おんべ川」と呼ばれていたそうです。その意味は、御贄、つまり神さまへの食事を運んでくる川だったということから。参宮客で賑わった時代以前から、水路として神宮（外宮）の食材をはじめ、いろんなものが運ばれていたようです。今も、秋になると愛知県の篠島から「おんべ鯛」が神宮へ奉納されるために大漁旗と共に船で伊勢湾で渡ってくるのを、神社港でお迎えしています。

## ●桧尻川（ひのきじりがわ）

勢田川の支流である桧尻川。住宅地を流れるこの川は、小さいながら実は勢田川本流と同じ一級河川。川沿いに植えられた桜が改修後も残されて、春には川辺の桜並木が楽しめます。川の水は以前ほとんどが生活排水でしたが、下水道の整備も進み、ずいぶんきれいになりました。勢田川に流れ込む桧尻排水機場のひ門のところからみた桧尻川も、のどかでいい風景です。

## ●塩田があった一色（いっしき）町

五十鈴川と勢田川に挟まれた一色町は、昔、塩づくりが主な産業だった地域で塩田が広がっていました。今はぐるりと堤防に囲まれて、たんぼや池になっています。

昭和 30 年代まではノリ養殖も盛んだったとか。

## ●神社港（かみやしろこう）

神社港は、海からの伊勢参宮の入り口として賑わいました。港周辺には、宿屋や遊郭もたくさんあり、賑やかだったといいます。対岸の一色町の塩の積出港としても発展したそうです。

## ●大湊（おおみなと）町は造船の町

河口では、古くから造船が盛ん。日本で最初の鉄の船がここ大湊で作られたそうです。全盛期のようなわけにはいきませんが、今も船が作られています。

## ●無形民俗文化財の「能楽」

下流地域には、伝統芸能「一色能」そして「通能」が受け継がれていて、伊勢市の無形民俗文化財に指定されています。2 月に通能、3 月に一色能が、それぞれの神社への奉納として披露されます。

## ●一色大橋

もっとも下流にあるこの橋は、大きな船が通れるように高く作られています。視点が高くなるので、橋の上は絶好のビューポイント。山を背景にした上流も、海へとつながる下流も、いい展望です。

# 勢田川で見つけた生き物たち

2001年、水環境保全に取り組む「伊勢・水の会」が小学生も参加して勢田川の生き物調査を行いました。川の中に入り、勢田川にたくさんの生き物が棲んでいることを確認しました。これはその時に作成したレポートを元に作りました。その後、河岸の改修が進み、中流の干潟は少なくなってしまいましたので、当時の貴重な記録となりました。

**みんながしっているサカナの名前や、詳しい方に教えてもらった名前を元にリストアップしました。**
**こんなにたくさんの生き物があの勢田川にいたなんて、ちょっとびっくり！です。**
**（伊勢独特の名前もあるかもしれません）**

## ●サカナたち

### 【コイ】
岡本公園あたりには大きなマゴイが泳いでいます。コイはきれいな水より、底が泥質で比較的汚い水を好むとか。放流された錦鯉や金魚もときどき見られます。最近は、生態系を変えてしまう恐れがあるので、放流には慎重です。

### 【フナ】
「川の魚といえばフナ」と思う人も多いのでは？庁舎前あたりにたくさんいました。

### 【ヨシノボリ】
ハゼの仲間のヨシノボリも庁舎前でみつけました。川底にいるサカナです。

### 【チチブ】
ハゼの仲間。成魚は全長8cmほどで、他のハゼ類と比較して太く短い体形をしています。

### 【イナ（→ボラ）】
イナはボラの小さいもの。海にいるサカナでもあります。勢田川は中流まで潮の干満があるのでたくさん上がってくるようです。中流域で一番よく見かける魚がイナです。
大きくなるとボラと呼ばれる出世魚です。

### 【セイゴ（→スズキ）】
スズキも海のサカナ。出世魚です。勢田川で育ったスズキの子どもが大海へとでていくのです。中流部、河崎あたりでみかけたのは「セイゴ」と呼ばれる大きさでした。

### 【オイカワ（→ハヤ）】
川で遊んだ記憶のある人には、馴染み深いかも。ソーセージやごはんつぶを釣竿につけて釣ったなんていうおじさんの話も聞こえてきました。

### 【モロコ】
モロコもコイの仲間。
勢田川にもたくさんいました。

### 【メダカ】
一時は「絶滅か？」と話題になりましたが、伊勢あたりにはまだまだ生息しているようです。

勢田川でも庁舎前の川が浅く瀬ができているところにたくさんいました。9 月にみつけたメダカはお腹が膨らんで産卵間近のようでした。

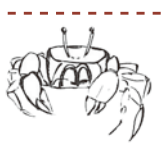
## ●カメの仲間

### 【アカミミガメ】
聞きなれない名前？では「ミドリガメ」は？
一時期よく夜店などで売られていた「ミドリガメ」の本名は､「ミシシッピアカミミガメ」といって、アメリカ産です。それが逃げたのか、捨てられたのか、日本各地の川に棲むようになりました。勢田川でもよく泳いでいます。顔の横に赤い線の入ったカメ。イシガメに比べると「悪人顔」な気がするのは偏見でしょうか？

### 【イシガメ】
灰色のカメです。2001 年いきもの調査の前の日に、岡本町の楓橋の上から「カニ捕りかご」を仕掛けたらイシガメが 4 匹も捕まりました。もう少し上流にたくさんいたのが、河岸改修で住み家が変わってしまったようです。

### 【スッポン】
スッポンの特徴は、頭の形と平べったい甲羅。パッと見ただけでわかります。時折、勢田川で頭を覗かせているのをみかけます。捕って食べようという人はなかなかいないでしょうね。

## ●カニやエビ



### 【チゴカニ】
泥の中にいる小さなカニです。
中流部、船江あたりの干潮時に現れる干潟で見ることができました。春から夏には、白いハサミを振っているチゴガニの可愛いダンスがみられました。

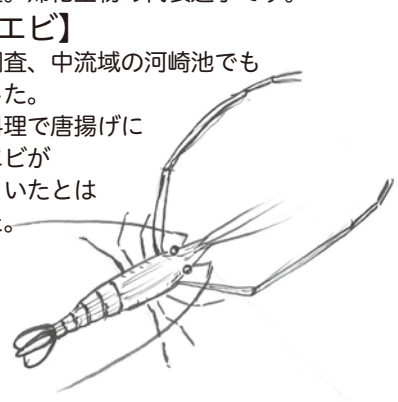
### 【クロベンケイガニ】
地元の子ども達には「ゲンマ」「ババガニ」という愛称で呼ばれていたそうです。庁舎前から下流近くまで、川の端っこや側溝、支流にたくさんいました。桧尻川の土手の石垣にはクロベンケイガニの巣穴がいっぱいありました。

### 【アカテガニ】
ハサミが赤いのがアカテガニ。よくみかける身近なカニの一種です。川の近くの道路をわたっているのをみたよ！という人もいるのでは？「アカテン」なんて呼び名もあったそうです。

### 【モクズガニ】
調査した時に脱皮殻をみつけました。

### 【アメリカザリガニ】
田んぼや用水路でおなじみのザリガニも、元はアメリカ産。帰化生物の代表選手です。

### 【テナガエビ】
庁舎前の調査、中流域の河崎池でも発見しました。
イタリア料理で唐揚げになってたエビが勢田川にもいたとは驚きでした。



### 【スジエビ・ヌマエビ】
川でよくみられるエビの種類。水草や水辺の植物の近くに棲んでいます。庁舎前の植生は、いろんな生き物を育てているんですね。

## ●見かけたトンボ
ギンヤンマ、ハグロトンボ、ショウジョウトンボ、アキアカネ…その他いろいろ

季節により場所により、いろんなトンボを見かけます。トンボは空を飛ぶので水に棲む生き物とは違うように思いますが、その幼虫時代（ヤゴといわれます）は川で育ちます。
2001 年 9 月の生き物選べでは、4 種類のヤゴが見つかりました。

## ●その他の生き物

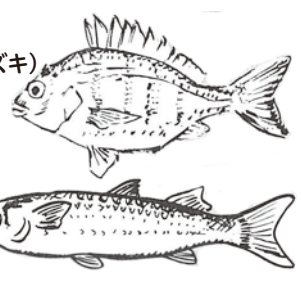
### 【オタマジャクシ】
見つけた大きなオタマジャクシには足がはえていました。ウシガエルの子どもだと思います。小さなカエルやオタマジャクシもいました。

## 川の生き物はこんなところにいますよ

庁舎前の勢田川は、土を寄せて、アシなどの水棲植物がはえている「陸の部分」が造られています。そうすることで、水の流れが速いところ、澱んでいるところ、と、幾筋かに分かれます。流れがゆるやかで瀬ができていたり植物のかげに隠れることができる場所があるから、たくさんの生き物が暮らすことができるのです。

## 河口（一色町あたり）で見られる海のサカナは？（→は出世魚の名前の変化）

**カイズ（→クロダイ）**
**セイゴ（→マナカ→スズキ）**
**ハク（→イナ→ボラ）**
**ハゼ**
**ウグイ**
**サヨリ**
**ワタリガニ**
**シャクエビ**
**アカエイ**
**シラス（→ウナギ）などが、河口で見られました。**



### ウナギのはなし
昔は勢田川河口でもたくさんウナギが捕れたそうです。漁法もいろいろあって「筒でとる」「石塚…石を積んで網をはる」「夜づき…船の後ろにライトをつけて寄ってきたウナギを突く」など。昭和 30 年代を境に河口の様子も変わってきたといいます。ウナギの稚魚のシラス捕りは昭和 50 年代から平成初めまで盛んに行われていました。最近は捕る人はいなくなりました。
2001 年の調査では、15cm のウナギの子どもをみつけました。改修されたり、下水道の整備が進み、ずいぶん水がきれいになった勢田川、今でも、まだまだいろんなものが川の中で生きているのかもしれません。

### 【ゴカイ】
ゴカイというのは、ミミズのように管になっている生き物で、節ごとに足があり、泥の中に棲んでいます。魚のエサで知られていますが、意外にたくさんの種類があり、潮の来るところにしかいないそうです。調査時に中流域船江あたりの干潟を掘ってみたら、赤色の平べったいゴカイをたくさん見つけました。河口から桧尻川との合流辺りまでにいます。釣りの餌にと採取している人もいました。ゴカイは鳥にとってもおいしいエサ。ゴカイがいるから鳥もたくさんやってくるというわけです。

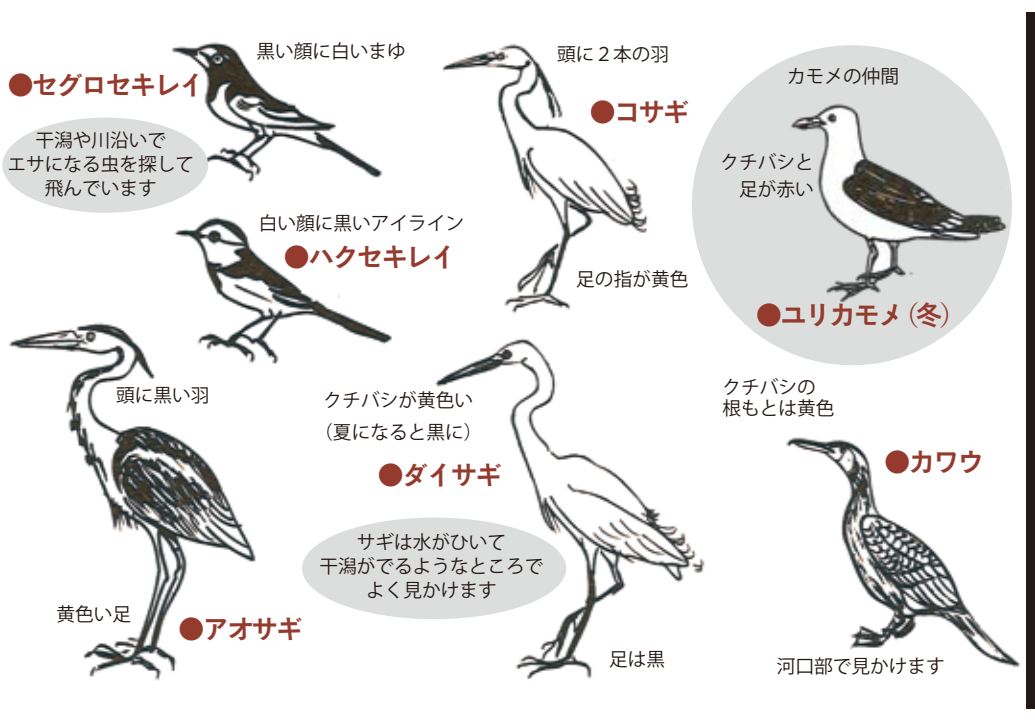
## ●カイの仲間

### 【モノアラガイ】
庁舎前では貝も見つけました。小さな巻貝は川にいる「モノアラガイ」という名前です。

### 【ニシガイ（アカニシ）】
### 【バンジョガイ（ツメタガイ）】
河口部では、稚貝をまいてアサリやシジミの貝漁をしていました。なじみのあるアサリ、シジミのほかにも「ニシ」「バンジョ」と呼ばれている貝がたくさん採れ、食べられていました。

# 勢田川流域でみかける鳥の仲間

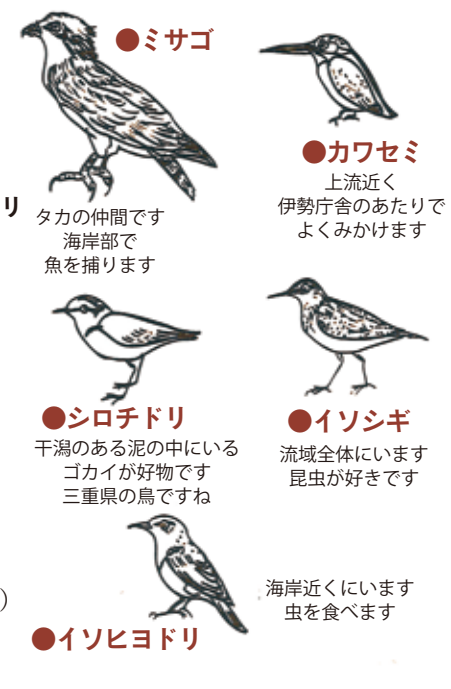
**勢田川の流域にはたくさんの鳥がいます。ここでは、川辺でよく見かける代表的な鳥の、ちょっとした特徴を書いておきますので、鳥を見つけたときの参考にしてください。**




**そのほか、こんな鳥も見かけましたよ！**

（2001 年調査に加え、2016 年調査も含めています）

- ●オオバン
- ●ムクドリ
- ●トビ
- ●ケリ
- ●キセキレイ
- ●カワラヒラ
- ●カイツブリ
- ●カンムリカイツブリ
- ●モズ
- ●スズメ
- ●キジバト
- ●ドバト
- ●ハシボソカラス
- ●ハシブトカラス
- ●ヒドリガモ（冬）
- ●コガモ
- ●カルガモ
- ●ヨシガモ
- ●キンクロハジロ
- ●ホシハジロ（冬）
- ●ジョウビタキ（冬）
- ●ツグミ（冬）
- ●サシバ（夏）




# 川辺のまち・河崎のこと

## ●河崎の歴史

河崎は戦国時代の末頃から、まちの中心を流れる勢田川を利用した水運で本格的に町の役割ができていきました。この頃に、防衛用の堀である環濠と門（惣門）が作られたと伝えられています。

安土桃山時代には、伊勢神宮周辺の経済の中心として位置づけられるようになりました。江戸時代には、米と魚の卸し売り専売権を認められるほどの繁栄を極める巨大な問屋街へと発展を遂げました。

明治時代になっても、商業の中心地としての地位を維持し続けた町でしたが、戦後になって、物資の輸送手段が船による水上輸送から、トラックなどの陸上輸送に変わるにつれ、問屋街としては徐々に衰退していきました。このような歴史の上に、現在も戦前の繁栄の遺構として、往時の商人達が軒を連ねた古い町家や蔵が各所に残されています。

まちの役割は変わり、河崎の町並みを彩る伝統的な蔵や町家は、その風情をとどめたまま再利用され、現代に合った飲食店や、美容院などさまざまなお店として生まれ変わっているものがたくさんあります。

## ●河崎の市民活動の変遷

昭和 49 年（1974）に七夕水害で伊勢市内の 6 割が浸水被害を受けました。その後、水害対策として勢田川の幅を広げる勢田川改修事業が始まりました。沿岸で約 300 戸の立ち退きを必要とする計画でした。

川幅を拡げるだけでは水害の解決にならないと、沿岸の河崎では改修事業に対する住民の反対運動が起こりました。その勢田川改修問題が発端で河崎のまちなみを保存しようと動きがうまれ、昭和 54 年（1979）に「伊勢河崎の歴史と文化を育てる会」ができました。この会は、全国町並み保存連盟に加入し、ナショナルトラストの町並み調査を受けました。その結果、「河崎の町並みは素晴らしい歴史的保存価値がある」という折り紙付きに。つまり、伊勢の河崎の町並みとは、全国的にも有名な、特色のある歴史的町並みなのです。

川辺の蔵の佇まいは、伊勢らしい風景のひとつとして、地元の人々に愛されてきました。河川改修が始まってから 40 年以上の歳月が流れ、護岸改修は全域に渡り、ずいぶん川辺の様子は変わりました。河川行政も、当時とは違う価値観をもって進められています。

行政と住民、市民活動の形も変わりました。「伊勢河崎の歴史と文化を育てる会」は、発展的解消をし、1999 年、その他のまちづくりグループとともに、地域住民を中心にした NPO法人伊勢河崎まちづくり衆が設立されました。

## 伊勢河崎商人館

「伊勢河崎商人館」は、川に面した蔵を持ち、600 坪の広さを有する河崎を代表する商家『小川酒店』（平成13 年国の登録有形文化財に登録）でした。その建物を伊勢市が修復整備し、平成14年に伊勢河崎商人館として開館。NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆が運営管理を行っています。母屋や蔵、河崎まちなみ館では資料を展示公開。川沿いの 3 つの蔵は、ミニショップが集まった商人蔵です。そして角吾座ホールや茶室、和室の貸し室も行っており、河崎のまちづくり活動の拠点として賑わっています。

河崎の町は、かつては川の両岸に、川から直接物資を運び込むことができる川辺の蔵が建ち並んでいました。河川改修後、「伊勢河崎商人館」の川側には特別修景区として、堤防の内側に水路と修景池がつくられ、水辺の石垣と蔵の景観を残しています。

## 河崎の「みどころ」

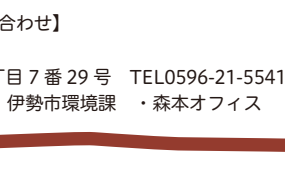
### ●切妻妻入り・鬼瓦・蔵の石積み

河崎の町並みを散策する時に知っておくと、より楽しめることがいくつかあります。

まず、伊勢らしい町並みといわれるゆえんでもある切妻・妻入りの家。つまり、道に面して屋根が三角になる様式ですが、その屋根は、よく見ると屋根の形もどれも同じではなく、まっすぐな意の「スグ」、膨らんだ「ムクリ」、反った「ソリ」、と 3 つの意匠に分類されます。

また、屋根の真ん中に設置されている鬼瓦。妻入りの場合は、妻面が正面に見えるため、屋号や家紋など各家趣向を凝らした鬼瓦を見ることができます。

そして、重厚な屋根の端には隅蓋瓦ともいわれる「飾り瓦」が載っています。家ごとに個性豊かに、水にまつわる意匠が多くみられます。



## 「勢田川」を知ってください

勢田川は、私達の生活排水を引き受けています。
誰が見ても汚い川ですが
伊勢市にとっては
なくてはならない川です。
その、川が抱かえている矛盾…
それは、私達の生活を
象徴しているように思います。

私達は、いつか、この勢田川を
きれいな川に戻すことが
できるのでしょうか。
そのために私達に
できることはなんでしょう。
水を大切に思い
生活の中でひとりひとりが
意識することが
まずは大切なことでは
ないでしょうか。

汚れている今の姿だけでなく
勢田川が昔
きれいだったことを
大切な川だったことを
もっと知ってほしい。
思い出して欲しい。

また、汚れた川の水辺にも
さまざまな自然があることや
勢田川には歴史があり、
水辺の文化が培われたことなど
いろいろな勢田川を
知ってください。


勢田川（せたがわ）
Seta Gawa environment map book
Seta Gawa 2016【環境マップブック】
2001「伊勢・水の会」編 改訂版

【このマップについての問い合わせ】
◆発行／伊勢市環境課
〒516-8601 伊勢市岩渕 1 丁目 7 番 29 号　TEL0596-21-5541
制作／伊勢市環境会議　・伊勢市環境課　・森本オフィス